

「社協に対して」

▼社協は非常にいい空気で、問題点は感じていない。ただ、合併によって、社協の役員さんが動いていらっしゃるものが、地域ではその姿が映らない。ぜひ、福祉風土を高める働きをしてほしい。

▼外出支援サービス、福祉有償運送サービスなど高齢者の足の確保は重要な課題だと思ふ。当事者となる高齢者にとって、もっと利用しやすいものになることを望む。

▼社協の取り組みは高齢者に傾きすぎていると思う。穴粟に暮らす外国人の生活で、病気のときなど困っている人がいる。社会福祉ということは弱い立場の人に目を向け、問題を解決すること。外国人の交流の場、連絡を取り合ったり、情報が得られたりする場があれば、と思う。

▼若い人が住みたいと思う子育て支援をしていただきたい。子ども達を大事にする活動に取り組み、安心して住める地

あけまして おめでとぅございます



二〇〇八年 新春
会長 春田重行
副会長 鶴崎和宏
副会長 谷尻昭雄
副会長 森井正躬
理事 水谷雄
理事 鎌田珠子
理事 村上ノリ子
理事 段林繁子
理事 田路壽子

理事 清水滋子
理事 小椋清之助
理事 金本幹雄
理事 中村和美
理事 西村長太郎
理事 平岡千恵子
監事 稲田実
監事 山下昭一郎
事務局長 山本正幸
職員 一同



坂本忠彦さん(山崎町)



岡田薫さん(波賀町)

他に、K.Cさん(女性)
A.Kさん(女性)にもご
協力をいただいています。

■市民モニターは、昨年
5日に、本紙上にて公募
し、自薦他薦により応募
いただいた皆様で、現在
7名の方々にご協力いた
だいています。

域づくりを自治体とともに社協は担う必要がある。田舎は本物の生の文化に出会う機会が少ない。『ふれあいコンサート』や子どものための『舞台劇』鑑賞などの生の文化活動はもっと持ちたい。

▼日本人はボランティアすることに正直恥ずかしいというような文化があるんだと思う。ボランティアする人をどう育てるかを考えたとき、ボランティア活動の点数制を導入するべきだと思う。現在の50代の人には十分な年金が受けられない不安がある。お金を介さなくても、元気なときに行ったボランティア活動が点数として将来ボランティアを受けたいときに使えるという発想なら、受け入れられるのではないだろうか。

▼合併後は、水道料の値上げや保育料の値上げ、市民局の職員が少なくなるなど、さみしい話題ばかり。社協には、やっぱり小地域、自治会の活動を盛り上げてほしい。過疎の地域が息づくきっかけをつくって欲しい。

▼『お達者クラブ』など、介護状態になることを予防する取り組みに力を入れてもらいたい。楽しみながら健康づくりにつながる施策を老人大学などといったしよになつてやれることがあればいい。ヘルパー養成講習を受講したが、介護の勉強をするということは、上手い介護の受け手になれることだと思う。こんな事も介護予防のメニューになるのでは、と考える。